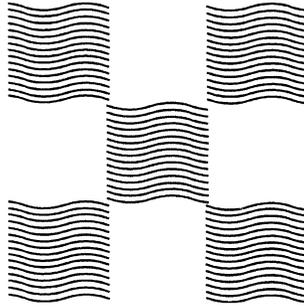


同志社社会学研究

「第 14 号」



2010 年 3 月

●研究論文

- | | |
|--|-------|
| 若年層における典型職・フリーターの内部の差異 | 山本 圭三 |
| 中国における社会ネットワーク研究の進展とその変化
——伝統的ネットワークから趣味ネットワークへ—— | 巴 芳 |
| 現代台湾における高学歴化の諸相
——1980年代以降に注目して—— | 黄 崑峯 |

●研究ノート

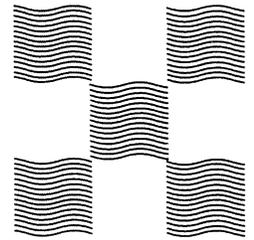
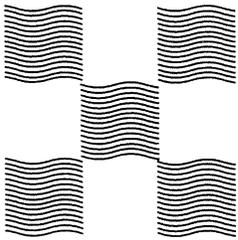
- | | |
|--|-------|
| 合意制家族と子どもの権利
——フィンランドのエンパワーメント政策が示唆する論点—— | 片岡 佳美 |
|--|-------|

●書評

- | | |
|---|-------|
| 鯉坂学著
『都市移住者の社会学的研究』（『都市同郷団体の研究』増補改題）
法律文化社（2009年） | 飯田 剛史 |
|---|-------|

●報告

- | | |
|--------|-------|
| 在外研究便り | 森川眞規雄 |
|--------|-------|



Doshisha Review of Sociology

No. 14 March 2010

CONTENTS

●ARTICLES

Internal Differences between Young Full-time Employees
and Part-timers (Freeters)

YAMAMOTO Keizo

Advances and Changes in Research on Chinese Social Networks :
From Traditional Networks to Hobby Networks

BA Fang

Some Aspects of Academic Meritocracy in Taiwan :
From the 1980's Onward

HUANG Kunfeng

●NOTE

The Consensual-System Family and the Rights of Children :
Issues Suggested by the Finnish Policies
for the Empowerment of Children

KATAOKA Yoshimi

●BOOK REVIEW

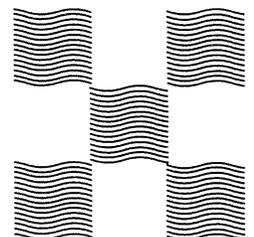
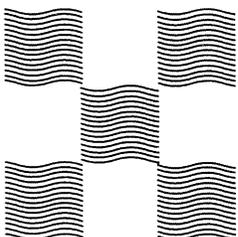
AJISAKA Manabu : *Urban Migrants and their Associations*
(2009, Horitsubunkasha)

IIDA Takafumi

●REPORT

A Letter from Beijing

MORIKAWA Makio



同志社社会学研究

NO. 14, 2010

<目次>

●研究論文

- | | | |
|--|-------|----|
| 若年層における典型職・フリーターの内部の差異 | 山本 圭三 | 1 |
| 中国における社会ネットワーク研究の進展とその変化
——伝統的ネットワークから趣味ネットワークへ—— | 巴 芳 | 17 |
| 現代台湾における高学歴化の諸相
——1980年代以降に注目して—— | 黄 崑峯 | 31 |

●研究ノート

- | | | |
|--|-------|----|
| 合意制家族と子どもの権利
——フィンランドのエンパワーメント政策が示唆する論点—— | 片岡 佳美 | 47 |
|--|-------|----|

●書評

- | | | |
|---|-------|----|
| 鯉坂学著
『都市移住者の社会学的研究』（『都市同郷団体の研究』増補改題）
法律文化社（2009年） | 飯田 剛史 | 55 |
|---|-------|----|

●報告

- | | | |
|-------------------|-------|----|
| 在外研究便り | 森川真規雄 | 57 |
| 研究室だより | | 59 |
| 社会学専攻大学院生 業績・略歴一覧 | | 60 |
| 2009年度博士論文・修士論文題目 | | 72 |
| 執筆者紹介 | | 73 |
| 『同志社社会学研究』編集規定 | | |
| 編集後記 | | |

『同志社社会学研究』編集規定

【1】本研究誌は同志社社会学研究学会の機関紙として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。

【2】掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）

研究論文（40～60枚）

研究ノート（20～30枚）

書評

その他

【3】編集委員は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生の代表により構成される。専門委員は本学社会学科教員より構成される。

【4】投稿者は本学社会学科教員、同院生、同修了・卒業生とする。

【5】原稿は書籍、学術雑誌に未発表のものに限る。掲載の可否は、専門委員の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。

【6】原稿の締め切りは12月末、発行は3月とする。投稿者は10月末までに専門委員1名に草稿を送付するとともに投稿の意思を伝え、12月末までに当該専門委員に最終原稿を送付しなくてはならない。

【7】執筆要領

横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参照文献の書式は日本社会学会機関誌『社会学評論』に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。

【8】提出原稿の形式

原稿には日本語と英文タイトルをつけ、ハードコピー（40字×40行）と電子媒体で提出すること。

【9】執筆者の原稿は、同志社大学ホームページ上の「同志社大学学術リポジトリ」上に公開することを原則とする。

【付記】

その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。

（2009. 7. 26 改正）

◆ 編集後記 ◆

『同志社社会学研究』第14号をお届けします。まずは、本号に寄稿いただいた飯田剛史先生（大谷大学）と片岡佳美先生（島根大学）に重ねて感謝申し上げます。

さて、例年、当該年度の院生業績一覧を掲載してきましたが、本号ではそれを拡大して、社会学専攻所属の大学院生全員の「業績・略歴一覧」を作成してみました。本専攻では、博士論文を提出する資格を得るために、（査読論文を含む）論文3本以上、（全国学会を含む）学会発表3回以上、（同志社社会学研究学会を含む）学内での論文構想発表2回以上、のすべての条件を満たす必要があります。しかし、後期課程3年次の時点でそれをクリアすることはかなり難しいのが現状です。

もちろん拙速を避けることは大切ですが、時間をかけることが良い成果を生むとは限りません。これまでの経験から言いますと、まずは前期課程1年次から自分のテーマを見定めてじっくり研究に取り組むこと、そして2年次では内容を練りながら理論的レベルの高い修士論文を書くことが大切です。単にデータを集めて分析しただけの論文では、後が続きません。論文にはアイデアが必要ですが、いろいろ悩んで考えた蓄積がそこで生きてくると思います。

また、論文は一人で机の前にすわっているだけではなかなか書けません。様々な場所と機会に出て行って自分のアイデアを発表し、他の研究者の意見に耳を傾けること、身近な教員や院生間で草稿を読み合っで議論することも、研究者になるための重要なトレーニングです。（どうもそれが苦手な人が多いようですね。）本号の「業績・略歴一覧」が自分の研究を見つめ直し、あるいは専攻内のコミュニケーションが活発になるきっかけになればと思います。

このたび、板垣先生はじめ歴代の編集委員の方々のご尽力により、同志社図書館の学術リポジトリに本誌のバックナンバーが登録されました。これにより、各号の論文は本文も含めて、ネットワーク上で世界中から閲覧できるようになりました。皆さまもぜひ一度、図書館のホームページでも本誌をのぞいてみてください。またそれにともなって、昨年の総会で承認いただきましたように、執筆規定もすこし変更しました。ご確認ください。

わが社会学専攻も前期課程と後期課程がそれぞれ10名を超える規模となりました。切磋琢磨にはちょうどいいサイズではないでしょうか。先輩諸氏からも、一層の叱咤激励を賜れますよう、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（鶴飼）

◆ 編集委員 ◆

鯨坂 学 (同志社大学社会学部)

鵜飼 孝造 (同志社大学社会学部)

片岡 佳美 (島根大学法文学部)

ニコール コマファイ (博士後期課程)

田崎 俊之 (博士後期課程)

野間 美樹 (博士前期課程)

同志社社会学研究 第14号

2010年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社